



みどりの杜俳句会



空晴れて花壇に昼顔上向きに	梅澤喜久江
薔薇の花薄紅澄みて杜の庭	西 ツル
露草の花に日の差し青さ増す	梅澤 時江
雨空へ银杏青菜の伸び行けり	鈴木 啓子
紫陽花の青の清らや庭の隅	松岡 幸枝
前山の雨の新緑奥暗し	田村 好子
紫陽花のつぼみ黄の帯び畑の隅	吉田 愛子
露草の花びら濡らし雨上がる	有賀袈裟江
青空を貫く如き新樹かな	柴崎 カヨ
沼水を張りて谷津田の波たてり	初雁 功子
足跡を手に均しつつ田植多かな	小宮 勉
山路晴黒蟻頭降り足を張る	山田 美子

人権シリーズ

【人権感覚を養うことの大切さ】

(427)

「人権」ってなんだろう。

「人権」とても抽象的な言葉であるように思えます。わかつていうようになかなか難しい言葉のようにも思えます。ただ言えるのは、本来【普遍的なもの】であるべきものだとも思いますが、しかしながら、時代・宗教・地域等により、異なった見方をしているのが現状だと思えます。また、近年便利さ（ネット等）から生じている人権に対しての大きな問題も脅威になっています。

私が人権について考えるようになったのは、2年前に人権擁護委員になってからです。その中でも、中学生の人権作文を拝読させていただく機会を得て、その内容に感銘をうけたことによります。まだ12歳から15歳の中学生が、障がい者・人種差別・男女平等・いじめ等の問題に対して、既にこれだけの問題意識を持っていることに驚きと、当時の自分とは比較にならない程の人権感覚を持ち合わせていると痛感いたしました。

法務省の人権啓発のキャッチコピーは、今年度も【誰か】のことじゃないです。この標語は人権教育の基本を的確に捉えていると思います。自分以外の他人のことでなく自分のこととして捉える、そのような人権感覚を養うことは非常に重要なことと思います。

21世紀は人権の時代と言われ、既に四半世紀過ぎております。世界的にも人権教育に力を入れていると思われれます。身近においても先ほどの中学生の人権作文を拝読させていただき感じたことは、人権に対する教育も着々と確実に進んでいるのだということ。そしてこんな人権感覚を持った若い世代にはとても期待しております。

人権擁護委員 大野 守雄



「黎明」
作者 版画を楽しむ会
倉林 均さん（皆谷）

アートの世界

秋の早朝、太陽が昇り、連なる山々と柿の木をやさしく照らす情景を作品にしました。朝の冷え込みの中、陽が昇ることで山々に靄が立ち込み、朝日の光と相まって、幻想的な世界が広がります。日光連山や赤城山、そして東秩父村から望む山々を組み合わせることで、版画ならではの風景を表現しました。